

楽しく

学ぶ

見て

徳島県立博物館

Museum News

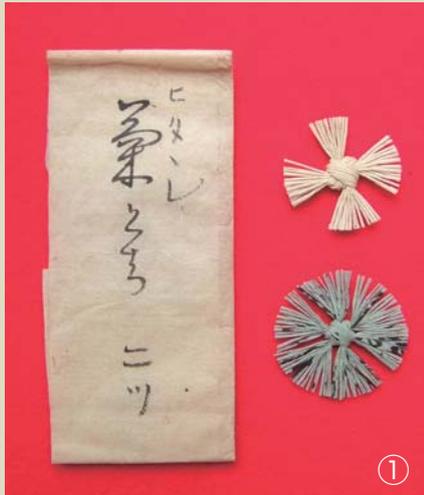
No. 76

# 博物館

はく

ぶつ

かん



①



②

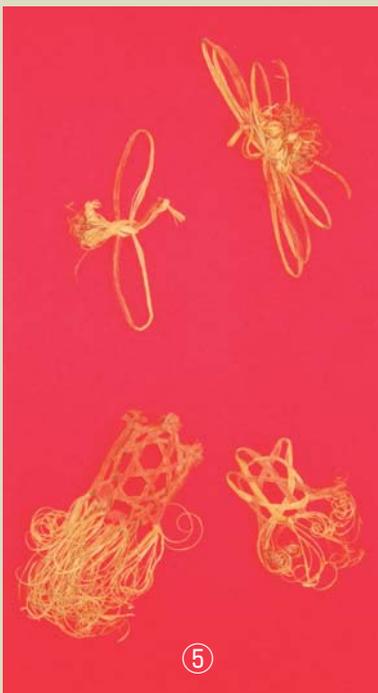


③



④

## 企画展『生誕200年 守住貫魚』より 貫魚の収集品



⑤



⑥

### これはなんでしょう？

この写真は、私、<sup>もりずみつらな</sup>守住貫魚がもっていたミニチュアや模型などです。いったいなにわかりますか…。

—答えは4ページを参照してください。—

## 四国遍路の成り

世界遺産登録に向けての取り組みが進められている四国遍路は、日本を代表する文化の一つです。

平安時代の僧・弘法大師（空海のこと。以下、大師とします）ゆかりとされる札所 88 か所をめぐる巡礼ですが、大師が始めたという事実はありません。

四国遍路の源流は、平安時代末期の聖といわれる宗教者が行った四国の海岸沿いを巡る修行（四国<sup>へし</sup>辺地）にあります。鎌倉～南北朝時代には、山伏の修行として四国<sup>へし</sup>辺路があり、やはり海岸巡りだったようです。なお、これらは大師信仰を前提としていたものではありません。

四国<sup>へし</sup>辺地・辺路をもとにしながらも、大師が讃岐（香川県）の出身だったことから四国が聖地と見なされ、次第に大師信仰にくるまれた四国遍路ができあがってきたのでしょう。

お大師さんが始めたんじゃないんだね。



中世の高野聖・巡礼

三十二番職人歌合(模本, 当館蔵)より。原本は 15 世紀の成立。画面の右が高野聖, 左が巡礼です。「高野聖」は、高野山に拠点をもった宗教者で、大師信仰を広める役割を担ったと考えられています。また、「巡礼」は、四国遍路よりも早く成立した西国三十三所の巡礼者の姿です。

ここで、88 か所の札所巡りとして四国遍路が定着した江戸時代のガイドブック『四国遍礼霊場記』(元禄2年 [1689], 以下『霊場記』とします)に注目してみましょう。この本では、大師の訪ねた跡を行くのが四国遍路だとされています。しかし、書かれている一つ一つの札所の由来を見てみると、意外なことに、大師との直接的なかわりかを示されていないところがあります。そうした札所の数は、阿波(徳島県) 4, 土佐(高知県) 6, 伊予(愛媛県) 12, 讃岐(香川県) 4 となっています。そのうちの一つである 86 番札所志度寺(香川県)は、平安時代末の 12 世紀にはすでに広く知られた霊場でしたが、江戸時代に至るまでは大師との関係が説かれることはありませんでした。



四国遍

当館蔵。初版は宝暦 13 年遍路絵図です。大師像が大きくもとづくことがうかがえます。

# 立ちと弘法大師

こうしたことから、四国遍路の札所は本来、すべてが大師に由来すると考えられていたのではなかったようです。詳しいいきさつは分かりませんが、さまざまな性格の寺社がある中で、中世末から近世初頭にかけての頃、札所が固定されると並行し、大師信仰が四国遍路全体をまとめるものとして位置づけられるようになったのでしょう。『霊場記』はそうした過渡的な時期の様子を物語っていると思われます。

(歴史担当:長谷川賢二)



四国遍礼霊場記

当館蔵。志度寺の部分です。



時代とともに移り変わりがあつたんだね。



礼絵図 (1763)。もっとも普及したく描かれており、大師信仰に

守  
Mori  
住  
zumi  
貫  
Tsura  
魚  
na

御絵師・好古家・帝室技芸員

守住貫魚（1809-1892）は、江戸から明治時代にまたがって活躍した日本画家です。彼は、徳島の城下に生まれ、絵の才能をみこまれて江戸の住吉家に入門し、阿波藩に絵師として仕えました。明治維新後、60歳をこえてから大阪に移住しました。

彼は、東京でひらかれた内国絵画共進会に自作を出品し、受賞をかさね、伝統的な画派の象徴となりました。そのかわり、若いころから親しんでいた好古のわざを深めてゆきました。好古とは、江戸時代に火がついた歴史ブームのひとつです。

今年2009年は、貫魚が生まれて200年にあたります。この企画展では、貫魚の生涯をふりかえり、その人物像と歴史上の役割を、あらためて紹介したいと思います。

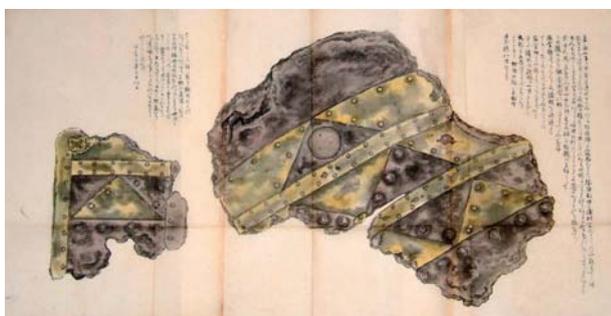


明治10年（1877）に東京の浅草文庫で描かれました。建物の部分は写真にもとづいたと記されています。

南都正倉院之図 守住貫魚筆

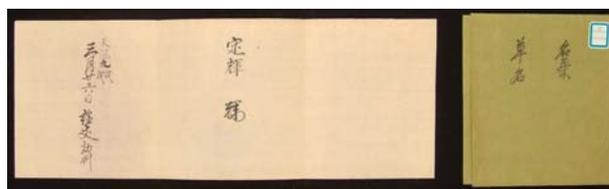


どんなひとかな？



阿波国勝浦郡田之浦村掘出古甲図 守住貫魚筆

嘉永7年（安政元・1854）に偶然出土した、古墳時代の甲の写生図です。実物はすぐに埋めもどされ、この図のみが記録にのこりました。



定輝名乗草名 屋代弘賢勸草

定輝は、貫魚の前の名前です。和学者の屋代弘賢より、サインの一種である草名があたえられました。

【会期など】

会期 10月17日（土）～11月23日（月・祝）  
休館日 月曜日（11月23日は開館）  
会場 博物館1階 企画展示室  
観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円  
※20名以上の団体は2割引、土・日・祝日の小・中・高校生は無料。

【展示構成】

I 守住貫魚の生涯 貫魚の生涯を、ゆかりの品々と作品によって紹介します。  
II 好古家としての素顔 貫魚がのこした品々をとおして、彼がたしなんだ好古のわざを紹介します。

【展示解説】

10月18日（日）・11月8日（日）ともに午後2時から3時まで 学芸員が展示室で解説をします。

【子どもむけスペシャル かんぎょ先生のクイズにチャレンジ!】

11月15日（日）・22日（日）9:30～16:30 会場にて行います。

表紙の答え

- ①菊とし（昔の服のかざり） ②えびら（矢をもち運ぶための武具） ③古代の銅鏃 ④アメリカのはしご ⑤鶴亀の水引 ⑥奈良時代の足袋



# 古代の阿波や讃岐にいた佐伯氏の役割や相互関係について教えてください。

佐伯氏は宮廷警護の職能を与えられていました。中央には佐伯連がおり、地方では佐伯直や佐伯造に率いられた佐伯部が中央の佐伯氏を支える集団として活動していました。佐伯直や佐伯部の記述は、日本書紀を含めた六国史や讃岐国・阿波国の戸籍、平城宮に送られた税に付けられた荷札の木簡などに見られます。播磨、安芸、讃岐、阿波など瀬戸内海周辺に多く分布していたようです。では、阿波国、讃岐国の佐伯氏に関連する古代の考古資料をもとに、阿波国の佐伯氏と讃岐国の佐伯氏の間を探ってみましょう。

奈良時代に阿波国、讃岐国から平城宮に送られた税に付けられた木簡には、「佐伯」と記されたものがあります。

### 阿波国

- ・阿波国美馬郡「二」三野郷戸主佐伯直国分米〔 〕
- ・阿波国美馬郡三野郷・戸主佐伯直国麻呂米五斗

### 讃岐国

- ・讃岐国三野郡阿麻郷・戸主佐伯直赤猪調塩
- ・讃岐国三野郡高野郷佐伯部

これらの木簡から、阿波国美馬郡三野郷（現在の徳島県三好市三野町近辺）や讃岐国三野郡（香川県三豊市三野町近辺）に佐伯直や佐伯部がいたことが分かります。

では、阿波や讃岐の佐伯氏は、互いに関係があったのでしょうか？

奈良時代以前、美馬郡には、7世紀後半に郡里

廃寺を建立した勢力があり、さらに100年ほど前の6世紀後半には、棚を持つ古墳の中で最大の段の塚穴を造営した勢力が存在していました。

郡里廃寺は美馬市美馬町郡里にあり、その建物の軒先を飾っていた軒丸瓦のなかに、12枚の花びらが描かれているものがあります（図1）。これと同じ型からつくられたものが、香川県さぬき市の極楽廃寺、木田郡三木町上高岡、仲多度郡満濃町の弘安寺跡から出土しており、香川県全体に分布しています。

また、美馬市美馬町を中心に阿波市、つるぎ町に分布する段の塚穴型の横穴式石室は、ドーム状の天井を持ち、胴張りの玄室で、ほとんどのものは奥壁に棚をもっています（図2）。香川では高松市の久本古墳だけが棚を持つ古墳として有名です。棚を持つ古墳は、徳島、香川だけでなく和歌山県、九州地方などを中心として西日本全体で見られます。

これらの事例は、現在の美馬市美馬町の東部に位置した勢力と、讃岐との関係を物語ります。しかし、その勢力が木簡に見られた美馬郡三野郷の佐伯直につながっているかどうかはわかりません。さらに、阿波・讃岐両国の佐伯氏が相互に関係しているのかもわかりません。最近、讃岐の佐伯氏が阿波に影響を及ぼしたとか、その逆が言われることがありますが、どちらも断定することはできません。

（考古担当：高島 芳弘）



図1 郡里廃寺の軒丸瓦

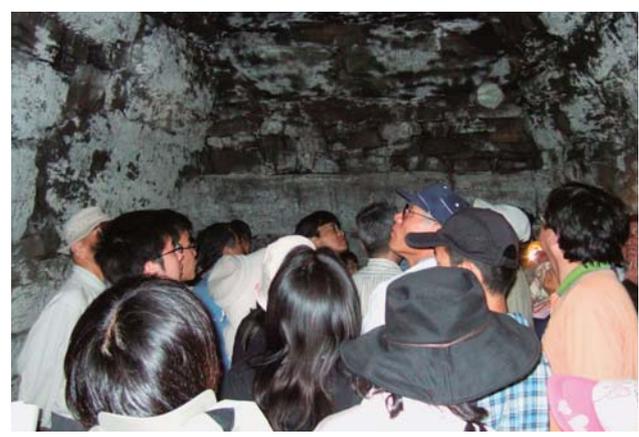


図2 段の塚穴の太鼓塚の玄室内部

# 秋だ!

痛い



# ひっつき 虫を探せ!

秋に荒地などで遊ぶと、必ずと言っていいほどズボンや服にくっついて私たちを困らせる“ひっつき虫”。このひっつき虫と呼ばれるものは、いろいろな草の実や種<sup>み たね</sup>で、その代表的なものにはセンダングサやオナモミ、又スビトハギなどがあります。これらは、それぞれカギ状のトゲやねばねばする液を出して人や動物にくっつき、遠くまで運ばれます。さあ、野原に行ってひっつき虫を探そう! (植物担当: 茨木 靖)

わー! 服にひっつき虫がいっぱい着いちゃったよう!



ミスヒキ。  
曲がった雌蕊<sup>めしべ</sup>の先で引っかかるぞ!

ひっつき虫にもいろいろあるニャ〜。



オオオナモミ。  
服などにくっつくで大変だ。

又スビトハギ。  
ひっつき虫の代表のひとつ。



電子顕微鏡の写真を見てごらん、トゲが逆向きについているじゃろ? これでは服にひっついたらとれないわけじゃ。



コセンダングサのトゲの先端 (電子顕微鏡写真) すごいトゲトゲだ。



センダングサの実の拡大模型。

## 徳島県の 迷蝶

その国や地域には生息していないはずの蝶が発見されたとき、「迷いこんできた蝶」という意味で「迷蝶」と呼びます。季節風や台風などで運ばれることが多いとされ、飛来した場所に幼虫の食草がある場合には一時的に発生することもあります。このような蝶は、日本では、梅雨前線が北上したときにそれに向かって吹く南～南西からの風に乗って、台湾やフィリピンなどに生息している蝶が飛来することが多く、沖縄県や鹿児島県、宮崎県などでは記録もたくさん知られています。しかし、外国からやってきたものだけを迷蝶と呼ぶということではなく、たとえば四国では、鹿児島県や沖縄県までしか生息していない種が飛来した場合でも迷蝶になり、太平洋に面した高知県は迷蝶の記録が多い県といえます。徳島県でもこれまでに、リュウキュウムラサキやメスアカムラサキ、カバマダラ、タテハモドキ、アオタテハモドキなどが知られていますが、その数は決して多いとはいえません。

ところがこの迷蝶について、近年、少しおかしなことが起こっています。私が初めてそれに遭遇したのは10年ほど前、県立二十一世紀館が主催する「文化の森ビデオコンクール」の受賞作品を見たときでした。家のミカンの葉に付いていた蝶の卵を飼育した記録映像で、卵から幼虫、蛹へと成長、そして羽化してきたのはシロオビアゲハでした。この種は現在、鹿児島県トカラ列島より南にしか分布しておらず、迷蝶としては関東での数例の記録もありますが、四国での迷蝶記録はありません。この映像は、選考委員が昆虫のことをまっ



図2 シロオビアゲハ



図1 日光浴をするタテハモドキ

たく知らない方々だったためにその内容の不思議なところには気が付かなかったということで終わりましたが、本当に飛来したものの子孫だったのかもしれない。

その後、徳島市内南部でカバマダラが採れ、タテハモドキが徳島市内にいたけど(図1)・・・と写真付きで情報が寄せられ、シロオビアゲハ(図2)もアオタテハモドキも採れた・・・などいくつかの迷蝶の情報が持ち込まれました。しかし、これらの記録はすべて雑誌などに報告できずにいます。「徳島蝶の会」の方々に聞くと、これらはどう見ても飛来したものと違うだろうといわれるのです。飼育されていた個体が逃げ出したという可能性が高く、記録はできないということでした。

迷蝶というのはどのあたりから飛んできたのであろうということも推測できる場合があります。しかし、飼育したものが県内のあちこちに逃げ出したとなると、徳島県の迷蝶の記録は一切信用できないということになり、本当に遠くから飛んできたのかもしれない個体でも、疑問符がついて記録が残せません。生きものを飼う場合には、そのあたりの責任も十分に考えてほしいものです。

この夏も、県南部でソテツにつくクロマダラソテツシジミ(図3)という南方系の蝶が発生しています。高知県あたりに迷蝶として飛来したものが広がっているようですが、これも食草があれば簡単に発生してしまいます。徳島県の迷蝶記録の信憑性のためにも、人為的にあちらこちらに放したりしないようにと願っています。

(館長：大原 賢二)



図3 クロマダラソテツシジミ



# 10月から12月までの博物館の催し物

あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史散歩	古墳見学②(渋野)	10月25日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
	縄文の谷ハイキング	12月6日(日)	10:00~15:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
歴史体験	勾玉をつくろう②	10月18日(日)	13:30~16:00	要	小学生から一般(30)	材料費100円(大学・一般)
	土器づくり②(焼成)	11月8日(日)	10:00~15:00	要	小学生から一般(40)	①(9/27)とセット 材料費300円(大学・一般)
	ミニ青銅鏡を铸造しよう	12月13日(日)	13:30~16:30	要	小学生から一般(20)	材料費300円(大学・一般)
野外自然かんさつ	河口の生きもの	10月4日(日)	10:30~12:30	要	小学生から一般(60)	現地集合
	アサギマダラを探そう	10月11日(日)	10:00~15:00	要	小学生から一般(15)	現地集合
	白亜紀の地層見学(勝浦町)	10月18日(日)	9:30~13:00	要	小学生から一般(25)	現地集合
	土柱周辺の地形と地質のかんさつ	11月1日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(25)	現地集合
室内実習	昔の道具調べ	10月4日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(30)	小学校4年生向き
	秋の野草かんさつ	10月25日(日)	13:30~16:30	要	小学生から一般(20)	
	木の葉化石の発掘体験	11月29日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(30)	材料費100円(大学・一般)
みどりの工作隊	どんぐりごまとウツギの笛を作ろう	11月15日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(36)	
	リースをつくろう	12月20日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	
ミュージアムトーク	修験道の歴史をみなおす	11月15日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
企画展関連行事	企画展「生誕200年 守住貫魚」展示解説①	10月18日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要
	企画展「生誕200年 守住貫魚」展示解説②	11月8日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要
部門展示関連行事	部門展示「佐藤忠邦氏の石器コレクション」展示解説②	10月12日(月・祝)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料無料
	部門展示「人形頭と人形芝居」展示解説	11月23日(月・祝)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料無料
博物館フェスティバル	文化の日フェスティバル	11月3日(火・祝)	9:30~16:00	不要	小学生から一般	

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。 ◎企画展の展示解説は、企画展観覧料が必要です(高校生以下は無料)。

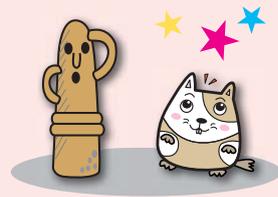
普及行事の様子  
じゃよ



鳴門の地層見学



水生昆虫のかんさつ



子どもたちも、大人も  
楽しく見て聞いてふれ  
て学べます。

博物館には楽しい催し物が  
いっぱい!!

## 普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきには、1行事だけにしてください。
- ◎行事日の1カ月前から10日前までに必着で下記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

希望の行事を選んでね。

往復はがき記入例

(往信の表面)	(返信の裏面)	(返信の表面)	(往信の裏面)
〒770-8070 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館 普及課	何も書かないで ください	あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号



※お問い合わせは、徳島県立博物館 普及課へ(電話 088-668-3636)

## おすすめの本ご紹介

### ■チリメン モンスターをさがせ!

きしわだ自然資料館、きしわだ自然友の会、日下部敬之監修：チリメンモンスターをさがせ! 64ページ、2009.1600円。偕成社。ISBN 978-4-03-437690-4.



チリモンって聞いたことがありますか?チリモンじゃコを食べていると、イカやタコのような生き物が混ざっていることがありますよね?あれが「チリメンモンスター」、すなわち「チリモン」なんです。大阪府岸和田市のきしわだ自然資料館では、遊んで学べる環境学習として、このチリモンの種類調べを行ってきました。今回ご紹介する『チリメンモンスターをさがせ!』は、まさにその集大成!本の中で、楽しくチリモン探しをしたり、チリモンカード図鑑で知識を深めたりしながら海の生き物について学べる良書です。ぜひ、ご一読ください。